

おおぎ会 歩こう東海道 57 次

“お江戸日本橋へ”

第 26 回

平成 25 年 10 月 11 日から 13 日

箱根の山は天下の嶮 函谷関も・・・待望の箱根越え、相模の国に入った。今回は、三日係りで挑む、最大の難所! 幸い天候は、私達の味方だ! 只東に向かって進むのみ!

この企画の誕生には 僕は立ち会っていないが、以後 継続され、26 回目となり、プロジェクトが、



おおぎ会東海道26
25.10.12箱根の関所

多年に亘る。早く“お江戸日本橋”に立ちたいと、気持ちは騒ぐが、いかんせん旅人の体力は、限界に近い。

東海道は 1601 (慶長 6) 年、徳川幕府が、江戸から京都間に 53 の宿駅を整備させた。京・大阪間には京街道 即ち 豊臣秀吉が、整備を行った「文禄堤」があり、未だ豊臣家は、健在であり、遠慮したのか、東海道を大坂迄とは言えなかった様だ。1615 年、大坂城が落城すると、大坂 (高麗橋?) まで延長、途中 伏見・淀・枚方・守口の 4 つの宿駅を設け、東海道 57 次となり、現在に至る。

旅 人	A	細田 庄一
	B	藤井 博伸
	C	中山 博夫
	F (記録)	足立 義明

(1 日目) 10 月 11 日 (金) 晴

公民館前→こわめし坂→山中城址→JR 三島

距離 5.80km (今日の歩行距離 15333 歩*60cm=9.56km)

天気予報は曇り、6:00 前に、長尾を出発、いつもの道を、今日は平日、大した混雑にも会わず美合 PA で小休止、三ヶ日 JCT より新東名へ! 一気に静岡 SA 迄、ひた走る。ここで 宿を手配するが、世界遺産になった為か、多くが満室! 空室がない。焦った。新東名長泉・沼津 IC より、伊豆循環自動車道に乗り、終点が、目指す伊豆フルーツ・パークだ。時は 10:50

計画では、ここで、早昼を取り、歩きの旅へ・・・食堂に行くと、本日貸切との事・・・食べられる物はアイスクリームとせんべい・・・店員さんが、すまなさそうに、少し歩くとラーメン屋があると教えてくれた。車を置き、歩きの旅の始まりだ。公民館前までは、バス停一つ。

御発ち 公民館前

公民館前 (標高 144m) に到着する。時は 12:00 しばらく歩くと塚原 丁度 民家レストランが目の前に、早速おにぎり定食を! やっと満腹、活力が湧いてきた。街道と、R1(国道 1 号)との交差点に、ラーメン屋は存在した。右手に 雑草が、腰高迄生い茂った、山道が見えた。



これが目指す街道。分け入る事となる。(写真左) やがて「**白転坂 (ウソカガシカ)**」(牛が転がったから? 白を転がしたから? 由来はどっち 写真右) 登りきると、「**坂小学校**」その先、富士の眺望が良いとされて



いたが、雲には、逆らえなかった。やがて「**題目坂**」(道程を示す題目石から由来する) 途中**法善寺** 更に、急坂が連なる。やがて**松雲寺**(寺は大名や朝鮮通信使等が休憩し、寺本陣と呼ばれていた)を左手に見ながら、更に舗装された坂道を登る。

こわめし坂



「**こわめし坂**」は、特に急坂で、背に負った米が、人の汗と蒸気で、強飯になった、との由来があり、急坂の難所だ。やがて**R1**と「**塚原新田**」で交差、**R1**はカーブで坂道、車が多いが、信号はない。丁度 改修された石畳風の舗装道路が出現する。この辺は、今も 生活道路として利用されている。やがて右手に「**笹原新田の一里塚**」石畳の道を進む。途中 **R1**に遭遇、歩道が街道となり、又山中に分け入る。又 石畳は **R1**と交差しているが、

工事中に着き、**R1**の側道を進む事となる。お蔭で…霧しぐれ富士をまだ見ぬ日ぞ面白き…と読まれた「**芭蕉句碑**」を見られなかった。創価大学のゼミな一ハウスの先から、本格的な石畳道を進むことになる。

山中城跡



この辺が「**上長坂**」林の中の石畳道を登って行く。やがて視界が開け、又 **R1**と交差する位置に、「**山中城跡**」がある。標高 **580m**の山城で、小田原北条氏の、西の砦であったが、秀吉の「**小田原攻め**」に遭い、わずか 1 日で攻め落とされた。「**障子掘り**」等 北条流の遺構が残る城跡である。日



も少し傾いてきた。もう少し進むことにする。「**芝切地藏**」を過ぎ「**諏訪神社**」の前にある陸橋を、渡り又山中に!

すぐに「**雲助徳利の墓**」(酒好きな雲助の親方の墓)があった。道標によると、次のバス停までは、時間がかかりそうなので、無理をしないで、今日はここまでとする。時に 15:20

お着き **JR 三島**

帰りはバスで約 20 分、フルーツ・パークに戻る。更に車に乗り換え、今日の宿「東横イン富士山・三島駅」にチェックイン 此の宿は、駅の北側にあり、町の繁華街は、駅の南側、街に出かける為には、駅の入場券を買うか、大廻りをするか二者択一である。一寸不便 ホテルもキャッシュバック・サービスと抜け目がない。鰻が有名であるが、高価である。掻揚定食とビールで 1970 円。空腹は満たされた。朝が早かったので、眠くなった。早々に、部屋に引き上げた。

箱根八里の石畳

箱根路は、標高 **845m**の箱根峠を越える区間で、三島から小田原迄の八里(32 km)の間を指し、三島側を「**西坂**」・小田原側を「**東坂**」と呼んでいる。この道の平均傾斜は 20%・最大 40%で、い

かに急であるかが判る。地盤はローム層で、大変滑りやすい道となり、当初は竹を敷く等の工夫を



していたが、それを維持するのは大変だったようだ。延宝8年頃には、宿内を除くほぼ全線が、幅2間(3.60m)の石畳に改修されたようで。その他、一里塚の整備や、風雪をしのぐために、並木の整備。とくに箱根を中心とした



「杉並木」(写真右)は、戦争の影響も受けず約420本がまだ生きている。

「西坂」は、笹原地区の石畳復元整備(平成9年)が最新の改修らしい。又「東坂」は、急坂の上「須雲川」の谷沿いにあり、多量の雨が降ると、泥水で、歩行困難となつたらしい。時の整備方法は、小石と小石を突き固めた礎版を作り、その上に、石と石とを組み合わせて並べ、歩道とし、更に縦の排水溝を持たせたものであった。現在も、比較的きれいに残っているのは、皇女「和宮」が降嫁されるのに合わせ、この道を整備したからとの事。ある本を読んでいると、自然石の丸みは、非常に歩きにくい、これも江戸の守りの為には必要だったとか?

参勤交代や伊勢参り等、旅が恒常化し、賑わった街道もやがて鉄道になり、東海道線や新幹線は「熱海回り」で、車社会になると、東名高速道は、「足柄峠越え」と変わり、近年でも、「箱根越え」は敬遠する程の難所であったのか、判る気がする。

(2日目) 10月12日(土) 快晴

雲助徳利の墓 → 箱根峠 → 箱根宿(10) → 箱根関所跡

→ 賽の河原の神隠し → 甘酒茶屋 → 畑宿 → 箱根湯本 → 三枚橋

距離 16.10km (今日の歩行距離 34317歩 * 60cm = 20.59km)

朝食7:00だが和食は7:30から提供との事、ゆっくり出かけると、食堂は満員だった。連泊を希望したが、今日は満室との事、やむなく駅南のホテル「アルファワン」に車を持っていきチェックイン。三島駅より8:15箱根登山バスに乗り込む。結構車内は混雑し、急峻なR1をバスは、喘ぎながら登っていた。バス停「山中」に到着する。

御発ち 雲助徳利の墓

予報では、夏日に逆戻りとの事 標高が高い分、気温が和らぐ事を期待し、「諏訪神社」前から、旧街道を登って行く。ここからは、函南原生林、歩きにくい石畳を進む。途中「一本杉の石橋」(写真左)に遭遇するが、石橋の下は、土砂で埋設し、川の面影ない。案内によると石橋は、何か所か



が設けられていたようです。再びR1で、車と並走する。やがてバス停「農場前」で横断し、農家の庭先を右に、すすきの生い茂った、山道を進むこととなる。「大枯れ木坂」・「石原坂」やがて「兜岩」(秀吉が小田原攻めの時 路傍の石に腰掛け、兜を置いて休んだとの事。以前は兜石坂にあったがR1拡張工事で移された? 写真中) 少し歩くと「接待茶屋跡」・「山中新田の一里塚」(写真右)

があり、近くに「江戸二十五里・京都百里」の道標 小休止の後 又 R1 沿いを少し歩き、きつい「兜石坂」を登りきると「井上靖の八里記念碑」があり、頂上も目の前。街道は、ゴルフ場の道と兼用で舗装され。比較的平坦となり、「峠の茶屋」で、R1 (国道 1 号) と合流し峠に向かう。

箱根峠



しばらく歩くと、トラック休憩所に接する広場に、数体の地蔵が、其々 勝手気儘に立っている。これが「峠の地蔵」で、目の前の峠 (相模と伊豆の国境) に到着する。時は 10:25 快晴で気持ちが良い、景色を堪能する。ここからは下り坂。旧街道とは、憑かず離れずの R1 を進む。「挟石坂」と表示された階段につながる獣道があった。お粗末なので先に進むと「道の駅箱根峠」が現れ、しばし休息を！更に歩くと、「芦ノ湖」が、湖上の船・左奥には、富士山・・・来年の年賀写真用に、最高のアングルを思考中・・・海賊船は離れていき、お山は、霞んでいく、残るは、芦ノ湖と老人・・・では感動が無い。(写真右) 「森のふれあい館」を過ぎると、「富士見橋」下に河床の様な、石畳道を見つける。これが旧街道「赤石坂」自然石で、歩きにくい。先方に 大きな杉の木 (杉並木に始まり) に遭遇し、やがて 多くの石塔・石仏群「芦川の石仏」その先 箱根宿の鎮守「駒形神社」を経て、集落に入っていく。



箱根宿(10)



R1 の歩道を歩き、箱根関所南を、左折し湖畔に到着する。ここが「箱根宿」である。又「箱根駅伝の折り返し点」(写真右) でもあり、毎年 新春に多くのドラマが感動を与えてくれている。



「箱根宿」の成立は、文献によると、元和 4 年 (1618) 山越えの便宜を図る為に、宿場を創設したとされ、当初 「箱根権現」の門前町近辺を予定したが、反対に遭い、芦ノ湖畔の荒地を、開墾し宿場とした。この時から、旧市街を「元箱根」と呼び、宿場とは区別している。宿場は、元々 何もなかったもので、小田原宿と三島宿より各 50 軒を強制移住させ、営業させた為 街は、2つの系統 (小田原藩と代官所) によって、治められていた。宿場の規模は、本陣 6 軒・脇本陣 1 軒・問屋場 2 軒・旅籠 72 軒 (天保年間) と、総人口 844 人の街としては、大きい宿場であったと思われます。現在も、9 家が永住され、実在するらしい。

箱根関所跡

湖畔を行く、正面に「箱根ホテル」R1 に戻り、バス停「関所跡入り口」の、3 差路を左手に進むと、



目指す関所に到達する。関所が設けられたのは、江戸初期 元和 5 年とされている。幕府は 江戸の治安維持の為、「新井」と「箱根」は特に重視し、規模も大きくした。関所の役割は「入り鉄砲と出女」と言われるように、鉄砲の持ち込みと、西国大名の女御が、故郷に逃げ帰るのを、阻止する事ですが、鉄砲は「新居」で取り締まり、ここ「箱根」では、出女を主に厳しく吟味 (体のほくろの位置まで整合) した様です。反面 一般人にはおおらかで、殆どノーチェックだった様で

す。だって 常時 20 人（足軽 15 人を含む）では、取り締まりにも限りがあります。又江戸は、発展途上中で、西国の知識や多くの労働力を大いに必要としたようです。

私たちは「京口御門」から入り、「江戸口御門」を抜け、関東に入ります。左手に 資料館がありますが、時間の関係で先に進んだ。大きな広場に遭遇する。ここで滝廉太郎作曲の中学唱歌「箱根八里」の石碑に出会い、更に恩師公園を左手に、昼なお暗き、杉並木道を歩く。「葎原久保一里塚」（写真）を右手にやがて大きな「赤い鳥居」に遭遇する。足元には「身代わり地蔵」があり。其の先から「元箱根」である。



賽の河原の神隠し

「一の鳥居」をくぐると、そこは「元箱根」である。左前方に、石塔・石仏が集められた、一角があり、そこが「賽の河原」（写真）と呼ばれている。丁度 お腹も空いてきた。これからは、峠道 レストランには、遭遇しないだろう。ここで



昼食をタイムとし、少し先の、うどん屋に入る。店は R1 と湖に、挟まれており、両側からの出入りが可能である。R1 側から入ると、左手に厨房 右手に、テーブル席が 8 席、奥の 和室に座卓が 8 席、殆ど満員だった。湖に近い座卓には、若き娘が一人、芦ノ湖をぼんやりと眺めていた。私たちは、その隣の席に陣取り、注文する。メニューから「ざるそば」と言う「もう終わりました」との返事、やむなく チャーハンに変更する。S 君は「おでん定食」にした。おでんの方が、早いと思ったが、チャーハンが、先に来て食べ始める。S 君は iPad を持ち出し、何かを検索し始める。おでんが来て、iPad を隣の席に？ 食事に熱中する。やがて食事が終わり、靴を履き、湖側の出入り口から退店する。その 1 分後 S 君は、手に iPad が無い事に、気づき引き返すが、すでに消えていた？ 神隠し！ 店員・お客に聞くが、判らない。但し 隣の若き娘を除いて？ なぜなら、その娘も消えていたから！ 賽の河原では、イタコが「口寄せ」をしてくれるそうだが、それは恐山での事 ここは元箱根 イタコは留守だ！

甘酒茶屋

食事を終え 13:00 「一の鳥居」脇の R732（県道 732）を湯本に向かう。トラブル発生 デジカメの電池が切れそう？ 近所にはコンビニもない。民家もない。何とか持ってくれ？ 道標に従い、脇道に入ると、「ケンペル・パニーの碑」があり、旧街道になる、陸橋で横断し、



なだらかな道。この辺りは「権現坂」で、下り坂の石畳、足取りも軽い。しかし それも束の間、やがて 昇り坂となり、「変更石」を過ぎると、又下り坂「天ヶ石坂」に変わり、更には「白水坂」と急な坂が続く。先方に「甘酒茶屋」が見えてくる。隣に 資料館があり、バス停もある。少し休憩 甘酒一杯 400 円で、結構疲れも取れる。今日は土曜日、人出も多い。しばし休息の後 14:15 歩きの旅が始まる。街道は「追込坂」に入るが、下り坂故に調子は上々。この辺の石畳道は、良く保存されている。やがて R732 に入り、なだらかな坂道の側を歩く。その先に、急なヘアピンカーブ ここが、「猿すべり坂」（猿も滑ると言われる）更に R732 を車に気を付けながら進む。やがて「見晴し茶屋」からは 急坂 R732 が、九十九折となり、箱根新道と交差し、道・道・道の束となっている。だから 歩道も、長い階段に頼る事となった（昔は坂道？）ここが一番険しい「檜木坂」（道中一番の難所と言われ「檜の木の下を歩くと苦しくてどんぐりほどの涙こぼる」と言われた）又 R732 を車に気を付けながら進んで行く。

畑宿（間の村）

「西海子坂(伊伏カカ)」を過ぎ、正面に、集落と「一里塚」が見えてきた。ここらは、古くから、寄せ

木細工の里「畑宿」で、「本陣茗荷屋跡」も残っている。村の途中より R732 を外れ、狭い急な下り坂「大澤坂」に入る。森の中の「割石坂」の石畳道を歩き、「発電所前」で再び R732 に合流する。ここで 山歩きに不似合いな服装の一人の男性が登ってきた。挨拶するも無視？

正面に「天狗茶屋」？ 急なカーブ道ここが「女ころがし坂」(馬上の女性が転落して死んだ) 正面に、派手な神社と「天狗茶屋」？

須雲川を渡り「鎖雲寺」の前を過ぎれば、目指す「箱根湯本」である。須雲川 IC を過ぎ、奥湯本の温泉街の山側の、幅が狭い R732 を車と一緒に下って行く。



箱根湯本

南風荘の上を過ぎると、小さな脇道へ、石畳は、温泉宿の間を縫って進み、途中「湯本一里塚」この辺が、湯本茶屋跡 さらに進むと「道祖神」と「案内板」があり、又 R732 に戻る。宿泊客が、行き交い賑やかだ！ やがて曾我兄弟ゆかりの「正眼寺」更には、北条家5代の菩提寺「早雲寺」を過ぎるころには、夕闇が迫ってきた。湯本小学校を過ぎ早川にかかる、目的地「三枚橋」はすぐそこだ。



お着き 三枚橋

午後5時前「三枚橋」に到着する。まだ 明るさが残っているが、今日は、朝からの歩き故、疲労も多いだろう。箱根湯本駅に向う。手前の交番で、iPad の盗難届を出す。丁度 そこに無言の紳士が連れてこられた。私たちが、「女ころがし坂」で出合ったあの人の。どうも、徘徊をしていたらしい。湯本発 17:15 の電車で小田原経由三島に到着したのは 18:30 すぐに 予約したホテルに入る。休憩の後、三嶋神社前に回転すしの看板を見つけていたので、そこに向かう。街灯の少ない住宅地を通ったら、迷い道 時間がかかったが無事到着。週末故か 結構混んでいた。少し待たされ席に。夕食は1杯の生ビールと寿司とうどん(1780円)でお腹を満たし、ホテルに戻り、疲れていたのか、早々に部屋に帰り、シャワーを使い就寝 20:45

(3日目) 10月13日(日) 晴れ

朝食は 7:30 より ゆっくり時間をかけた。S君が、昨日の悪夢を、引きずっている。忘れろとは言わないが、元気がない。S君は iPad の解約等の手続きを終え、追っかけ合流するから、先に進め との事だが、みんなで歩く東海道・みんな一緒にないと・車で小田原に向かう。途中 昨日の食堂と箱根交番に出向くが、善意の届け出は無いと。期待は、していなかったが 残念！

母さん 僕あの iPad はどうしたでしょうね？

ええ 秋 三島から小田原へ行くみちで

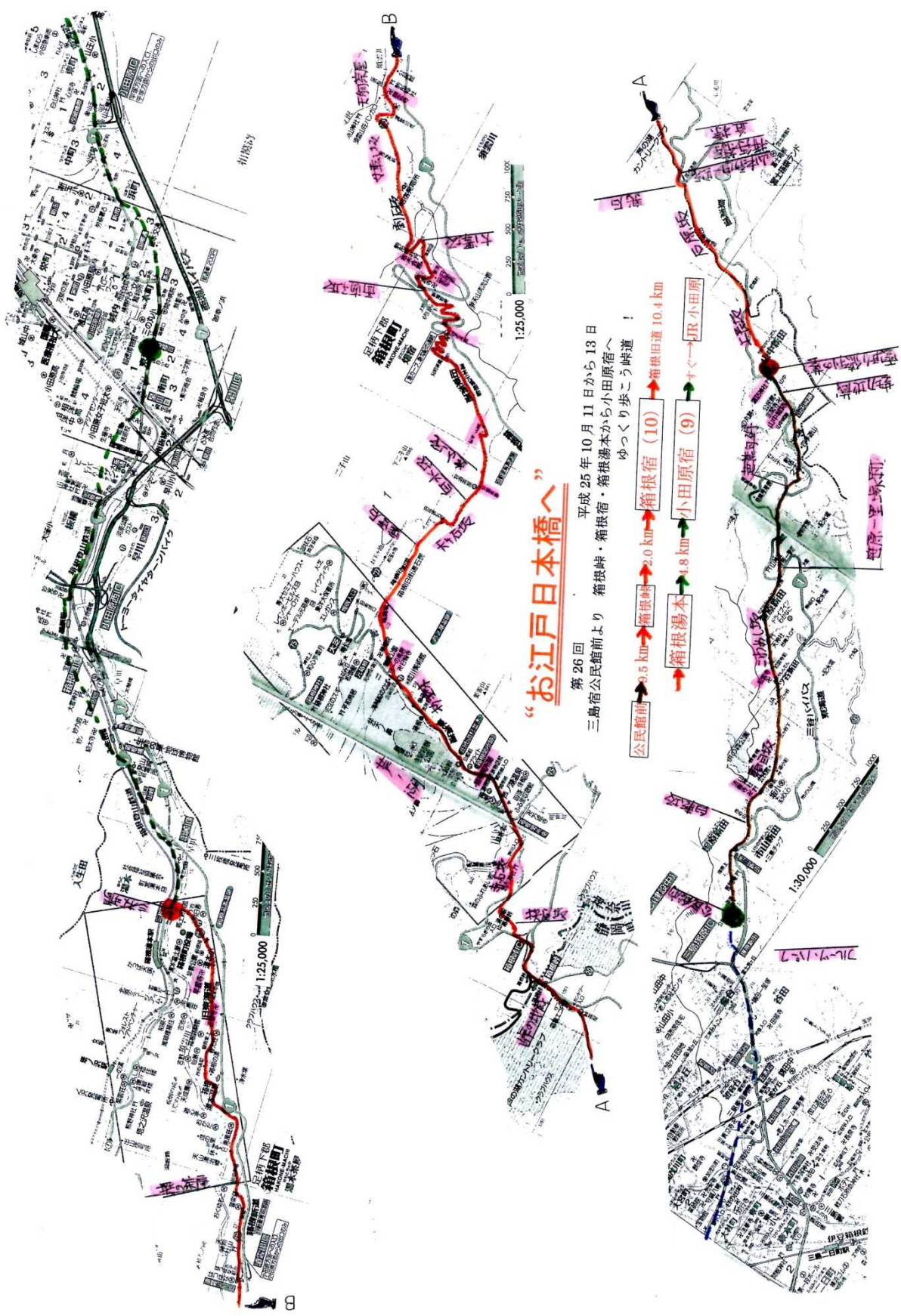
箱根で無くしたあの赤いカバーの iPad です！



10時には、小田原に到着した。昨日一日がかりで歩いた道を、わずか1時間と一寸・・・便利な時代だからこそ、昔を知る必要があるように思う。ソフトバンクに出向き、解約手続き完了する。此の後 各地で iPhone の窃盗が、頻発するとは、夢にも思わないのだが！

今日はお休みとし、みんなで、小田原城に登城する！ だっていいじゃん！ 昨日はすごく頑張った。自分に、ご褒美も必要かも？

(おわり)



“お江戸日本橋へ”

第26回 平成25年10月11日から13日
 三島宿公民館前より 箱根峠・箱根宿・箱根湯本から小田原宿へ
 ゆっくり歩こう峠道！

- 公民館前 → 3.5 km → 箱根峠 → 2.0 km → 箱根宿 (10) → 箱根田道 10.4 km
- 箱根湯本 → 4.8 km → 小田原宿 (9) → JR 小田原